

平成28年度

事業報告書

自：平成28年4月1日

至：平成29年3月31日

社会福祉法人 まどか

理事長 村田 直司

社会福祉法人まどか

平成28（2016）年度 事業報告

1. 理事会の開催

2016年 5月21日（土）	2016年12月 3日（土）
2017年 2月 4日（土）	2017年 3月11日（土）

2. 評議員会の開催

2016年 5月21日（土）	2016年12月 3日（土）
2017年 2月 4日（土）	2017年 3月11日（土）

3. 定款の変更届け及び認可

変更理由	届出日	認可日
社会福祉法改正に伴うもの	平成29年2月21日	平成29年3月 8日

4. 指定

特になし。

5. 施設整備

特になし。

6. 2016年度社会福祉法人指導監査結果

実施年月日	文書指摘事項	口頭指摘事項
2016年10月13日	・特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・情報公開の閲覧簿を漏れなく整備すること。 ・決算付属明細書について、決算書の金額と一致させること。 ・小口現金について、金種票を作成し、適正に管理すること。 ・1社で随意契約を行う場合は、合理的な理由に基づき、2社以上の業者から見積もりを徴さない旨の理由書を作成し、理事会等の承認を得る事。

7. 施設運営

① 利用定員（2017年3月末現在）

すみれ工房	1日当たり	20人
就労移行支援	1日当たり	6人
就労継続支援B型	1日当たり	14人

とまり木

地域活動支援センター 1日当たり 20人

② 職員数（2017年3月末現在）

すみれ工房

管理者 1名（常勤兼務）

サービス管理責任者 1名（常勤兼務）

就労移行支援

就労支援員 1名（常勤）

職業指導員 1名（常勤）

生活支援員 1名（非常勤）

就労継続支援 B型

職業指導員 2名（非常勤）

生活支援員 1名（常勤）

とまり木

地域活動支援センター

施設長 1名（常勤）

生活支援員 1名（常勤）、2名（非常勤）

③ 主な年間行事

月	行事名
4月	観桜会、福山市仏教会主催 花まつり出店参加
5月	バーベキュー
6月	夏期販売促進事業（実施期間：6月～8月）
7月	七夕杯ボウリング大会、三吉町東町内会夏祭り出店参加、 玉木幸則さん講演会「障害者差別解消法ってなあに？～暮らしが良くなってい く 工夫の積み重ね～」(一般財団法人義倉助成事業)
8月	三吉町中之丁町内会夏祭り 出店参加、TLSF 彩フェスタ 出店参加
9月	防災避難訓練
10月	ふれあい福祉まつり参加
11月	冬期販売促進事業（実施期間：11月～12月）
12月	クリスマス会、みかん狩り、冬期販売促進事業（11月～12月）
1月	初詣

2月	節分行事(手巻き寿司)、防災避難訓練
通年	産業カウンセラーによるカウンセリング、折り紙教室、体力作り事業

④ 役職員研修

実施年月日	研修名 等
2016年4月9日	講演会「『障害者差別解消法』の施行とこれからの地域生活支援」
2016年4月22日	講演会「精神・発達に課題のある方への就労支援のコツとこれから」
2016年5月31日	法人内研修 DVD学習「大人の自閉症スペクトラム」
2016年6月7日, 13日～14日, 27日	発達障害スキルアップ研修(相談支援)
2016年6月24日	法人内研修 DVD学習「大人の自閉症スペクトラム」
2016年8月3日～4日, 9月20日～23日	ジョブコーチ養成研修
2016年8月30日	法人内研修 DVD学習「大人の自閉症スペクトラム」
2016年9月16日	障害福祉サービス経営セミナー
2016年9月23日, 28日～29日	発達障害スキルアップ研修(就労支援)
2016年10月25日	経営の視点を持ったマネジメント研修(経営管理編)
2016年12月12日	経営の視点を持ったマネジメント研修(財務管理編)
2017年3月4日	IPS全国研修 in 岡山

⑤ 関係団体との連絡会議等

福山市障がい者地域総合支援協議会(就労支援部会、地域生活支援部会)
福山・府中障害保健福祉圏域障害者就労支援ネットワーク会議 (委員会幹事委員会、就労支援部会、企画研修部会)
一般社団法人 トータルライフサポートふくやま
福山市社会福祉施設連絡協議会
福山市障害者(児)施設連絡協議会
福山市小規模作業所連絡会
広島県精神障害者支援事業所連絡会

障害福祉サービス事業所 すみれ工房 平成28（2016）年度 事業報告

利用実績および経営状況について

○ 就労移行支援事業

定員6名に対する利用状況は38.3%と、前年度と比較して6.1ポイント増加しました。月初における月平均の利用契約者数でも、前年度より1.0名増の3.58名となっています。今年度も定員数の半分となる3名が一般企業へ就労されており、就労中の方への定着支援についても他就労支援機関をはじめ、就労先の企業担当者との連携を継続して行うことができました。そういった中でハローワークおよび相談支援機関等からの紹介があることから、当事業所の特性や就労支援体制について一定の評価を得られている結果と考えています。

経営面では就労定着実績が増えたことによる加算増もあり、昨年度の4,535,710円より999,780円増収の5,535,490円となりました。しかし、年度当初から就労者がある一方で新規利用が年度後半に集中しており加算対象職員の異動もありました。結果として大幅な増収には至らず、事業単独での経営については引き続き課題があります。また、限られた人員による支援体制であることから、職員の異動等を踏まえた安定的な支援体制の確保についても課題といえます。

月別の利用登録者および利用者数の推移 (人)

	契約者	延べ利用者	1日平均	新規契約者	退所者
4月	3	36	1.64		1
5月	3	41	1.95	1	
6月	3	32	1.45		1
7月	2	27	1.23	1	
8月	3	26	1.18		1
9月	2	29	1.32		
10月	2	36	1.64	1	
11月	3	37	1.68	1	1
12月	4	46	2.30	1	
1月	4	74	3.70	3	
2月	7	97	4.85		
3月	7	106	4.61		
計(平均)	43	587	2.30	8	3
前年度	31	502	1.93	2	1
前年比較	12	85	0.36	6	2

※ 契約者の計は、各月1日現在での利用契約者数の合計

年間実利用契約者：10名、月平均利用契約者：3.58名

○ 就労継続支援(B型)事業

定員 14 名に対しての利用状況は 63.1%と昨年度より 11.4 ポイントと大幅な減少となりました。新規利用契約者数に比べて退所者数が 3 倍であり、月初における月平均の利用契約者数をみても、前年度より 2.2 名減少の 20.8 名となっています。このため経営面では、昨年度の 18,891,240 円より 3,522,750 円減収の 15,368,490 円であり、安定的な事業運営を考える上では大変厳しいものとなりました。

新規利用契約者 3 名の内訳は法人内他事業からの移行が 1 名、市内の他事業所からが 1 名、相談支援事業所からの紹介が 1 名に留まっています。その一方で、法人内の就労移行支援事業へ移行された方が 2 名、市内の就労継続支援 A 型事業所へ移行された方が 2 名、体調事由や作業内容を含めた環境が本人のニーズと異なることから退所された方が 5 名となっています。加えて継続的な課題である施設整備による作業環境の改善や、今年度を実施した利用者のミーティングにおいて工賃の向上や、製造や接客販売を主とした作業に対するニーズも出てきています。利用者ニーズや市内他事業所の動向を踏まえた、市内における当事業所の魅力作りについて精力的に取り組んでいく必要があります。

月別の利用登録者および利用者数の推移 (人)

	契約者	延べ利用者	1日平均	新規契約者	退所者
4月	24	240	10.91		2
5月	22	185	8.81		1
6月	21	200	9.09		
7月	21	194	8.82		
8月	21	191	8.68		
9月	21	205	9.32		1
10月	20	186	8.45	1	
11月	21	194	8.82	1	1
12月	21	167	8.35		1
1月	20	154	7.70		1
2月	19	171	8.55	1	1
3月	19	194	8.43		1
計(平均)	250	2,281	8.83	3	9
前年度	276	2,722	10.42	5	2
前年比較	△ 26	△ 441	△1.59	△ 2	7

※ 契約者の計は、各月 1 日現在での利用契約者数の合計

年間実利用契約者：27 名、月平均利用契約者：20.83 名

利用者の状況 (2017 年 3 月末現在)

男女比		障害種別(重複あり)					年齢層						
男性	女性	身体	療育	精神	発達	他	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	平均年齢
21	4	0	3	21	3	0	0	5	6	7	6	1	40.24

就労支援および就労実績、生産活動について

○就労移行支援事業

今年度は一昨年度より実施してきた集団プログラムではなく、利用者個々のニーズに特化した個別支援プログラムを中心とした就労支援を実施しました。これは、年度当初の利用者数が少なかったことに加えて、利用者個々の就労経験や社会生活技能の差異が大きく、集団プログラムの実施に適さなかったためです。

結果としては、一般企業への就労された方が3名となりました。これは個々のニーズや特性に沿った、より個別的な支援を行えた成果と考えています。また、一般企業において就労中の方への定着支援についてもハローワークはもちろん、東部地域障害者就業・生活支援センターや広島障害者職業センターなどの他就労支援機関との連携、就労先の企業担当者との電話連絡・訪問による調整など、就労中の方との面談と併せて精力的に活動することで定着率の向上を図る事ができました。

その一方で、年間を通じて安定的な利用者の確保については継続課題となっています。今年度末時点における利用契約者数では定員数を若干上回る実数ですが、年間の平均利用では2.3名と定員数の半分以下という水準です。その中で当事業所としては初めてとなる『就労継続支援B型事業の利用に係るアセスメント』を2件行ないました。市内における当事業所の役割として特別支援学校をはじめハローワークや相談事業所等への周知と併せ、安定的な利用者の確保に取り組んでいきます。また、職員の異動等を踏まえ就労支援体制について就労支援スキルの共有化など、人材育成にも引き続き取り組んでいきます。

○ 就労継続支援(B型)事業

今年度も、生産活動として施設内外の作業科目に継続して取り組む一方、地域におけるイベントに対し地域啓発を含めて法人全体として取り組み工賃の向上を図りました。

生産活動については総支給額で1,448,843円と昨年度の1,520,531円と比較して71,688円の減額でしたが、月額平均では昨年度と比較して1,336円増額の8,279円と2年連続で増額しています。これは利用契約者数が減少したことで作業量の減少による全体収益の減少があるものの、極短時間利用者を含めた利用契約者数の減少により一人当たりの支払い工賃が増額したことが要因です。

また、将来的には一般企業での就労を希望される利用者がある一方で、年齢や体調により一般企業での就労ではなく、福祉的就労を希望される利用者も徐々にではありますが増加傾向となっています。利用者のミーティングにおいて工賃の向上や、製造や接客販売を主とした作業に対するニーズが出てきていることも踏まえ、受託加工や清掃だけではない生産活動を念頭に、施設整備計画の策定を早急に進めていく必要があります。

就労支援については、生産活動における作業訓練、障害者職業能力開発校が実施する障害者委託訓練の受講や、個別面談を通じて継続して行いました。しかし、先に述べたようなニーズを持つ利用者の増加傾向も踏まえ、今後の高年齢化に伴う生活課題についても医療機関や行政、相談支援事業所等との連携強化により包括的かつ柔軟な対応が行なえるよう、法人内外における各種研修への参加により、人材育成に取り組んでいきます。

地域活動支援センターとまり木 平成28（2016）年度 事業報告

当年度に於いても引き続き、福祉サービス制度の間で困っている当事者、家族のセーフティネットとしての役割、登録利用者の生活訓練及び日中の居場所作りに貢献できたと判断いたします。

また、利用については医療機関、基幹相談支援センター、ハローワーク、相談事業所等からの問い合わせが増えています。福山市唯一のⅢ型地域活動支援センターとして障害福祉サービスを受けられない人たち（いわゆるグレーゾーンの人）の受け皿としての当事業の必要性が増している事を痛感します。来期も当事業所を利用し生活支援、相談、情報提供を行っていき利用者の社会復帰に貢献していきたいと思います。

① 生産活動について

当年度も前年に引き続き、(株)永山（フルーツキャップ梱包）、ビッグベアー(有)（洋服ハンガー掛け）、内職市場（ねじワッシャー通し、ビーズ糸通し等）、(社)トータルライフサポートふくやま（清掃、各種スポット作業）、(株)ハッピーホーム（DM封入）、草刈（地域の方々の自宅、あるいは共用の場の草抜き草刈）のを行い年々充実してきています。今後は作業品目を増やすのではなく作業効果が高い品目を選定していく事が重要と感じています。

② 地域交流活動について

「すみれ工房」と協働し例年参加させていただいている「東町内会夏祭り」「中ノ丁町内会ふれ愛夏祭り」「ふれあい福祉祭り」に引き続き参加し地域交流を図って行きました。更に本年度も引き続き(社)トータルライフサポートふくやまよりの多くのイベントを行い地域の方々との交流に貢献しました。

③ 創作活動について

例年御協力頂いている毎月第三土曜日の「おりがみ教室」（高橋敏子先生）、毎週火曜日「さをり織教室」（村田紀美子さん）を行い、利用者の創作意欲を刺激することができました。

④ 体力作りについて

例年行っている毎月第四土曜日の「障害者体育センターでのスポーツレクリエーション」を行ないました。

福山市障害者等地域活動支援センター「とまり木」

実績報告書（平成28年度分）

利用者の定員 20人

（うち身体障害者3人, 知的障害者7人, 精神障害者23人, 障害児0人）

各月の事業実施日数及び利用者数等

月	事業実施日数	在籍者数 (各月1日現在)	各月の平均利用者数	新規利用者数	退所者数
4	21日	31人	11.7人	0人	0人
5	17日	31人	11.9人	0人	0人
6	22日	31人	11.0人	1人	0人
7	22日	32人	11.9人	0人	0人
8	20日	31人	10.9人	1人	0人
9	21日	32人	12.2人	0人	0人
10	21日	32人	12.3人	4人	1人
11	20日	35人	13.9人	2人	1人
12	20日	36人	13.5人	0人	0人
1	20日	36人	11.7人	1人	2人
2	19日	35人	13.5人	2人	1人
3	23日	36人	13.9人	0人	3人
計	246日			10人	8人